

天童と将棋駒





〈表紙〉
天童桜まつり『人間将棋』



目次

1. 将棋駒産業の歴史	
1-1 国内将棋駒発展の概略	2
1-2 天童将棋駒の発祥	3
1-3 天童将棋駒の発展	4
1-4 天童将棋駒の現状と課題	9
2. 将棋駒の生産	
2-1 原木の種類	11
2-2 駒づくりの道具	12
2-3 駒木地づくりの工程	13
2-4 将棋駒の種類と工程	16
2-5 銘の種類	
○江戸時代まで	19
○明治以後	23
3. 天童将棋駒資料編	
■観光と将棋	26
■将棋駒関連表彰者	31
■伝統的工芸品 / 伝統工芸士	32
■将棋駒年表	33
■将棋のまち天童	35



1. 将棋駒産業の歴史

1-1 国内将棋駒発展の概略

現存する日本最古の駒は、奈良県興福寺の旧境内の井戸状遺跡から出土した「王将」や「金将」など15点で、天喜6年（西暦1058年）という年号を記した木簡と一緒に出土しています。また、兵庫県日高遺跡から出土した「歩兵」、山形県酒田市の城輪柵跡から出土した「兵」の駒は、いずれも平安時代後期（11世紀末～12世紀頃）のもので推定されていますが、他にも全国各地の遺跡から駒が出土しています。

本格的な将棋の駒作りとして伝えられているのは、16世紀末（安土・桃山時代末期）の能書家でもあった水無瀬兼成が正親町天皇の命により書駒を作ったのが始まりといわれ、また、その養子親具が関白豊臣秀次の命により駒銘を書いたと伝えられるものが現存しています。これらの駒は漆書きの駒で、水無瀬家で作られた一連の駒を「水無瀬駒」といい、後世の「駒銘」（作者名のある書体）の源流になっています。

江戸時代中後期から明治時代には、清安、安清、金竜、真竜等の号を持つ駒師が出て書駒や彫駒の他に彫埋駒、盛上駒等も見られるようになります。また、江戸時代の財政困窮にあった諸藩では様々な産業を試みますが、将棋駒作りもその一つでした。明治期には、将棋家元十二代大橋宗金や酒田の書家であり将棋八段の竹内淇洲が駒を作っています。この時代には、一般大衆の間では、将棋を指す人が自分で作って遊んだものも多かったと思われま

す。明治末期から大正時代になると、天童や大阪等の産地が大量生産の体制に入り、特に天童は駒木地製造の機械化により安価な駒を全国に供給して大衆駒の産地として有名になりました。

大阪は、天童以前の大衆駒の生産地であったことから、字形も略字体等が開発され、道具や彫り方にも独特なものがあります。大阪彫りは略字の直彫りで、黄楊、椿、柳材を用い、俗に「ごんた駒」と呼ばれた中級品が西日本を中心に広く愛用されました。そして、その字形や作り方は、天童にも大きな影響を与えました。しかし、大衆駒の生産地として天童が取って代わってからは、大阪は産地として姿を消し、わずかに赤松駒権に見られるような独特の深彫が残りました。

大正期から昭和期の東京では、棋士でもあった豊島太郎吉が、息子と2人で龍山作として駒を作り、現在使われている多くの駒銘の研究開発をし、木地、書体、漆の高い技術と入念な作りで近代高級駒の基礎を築きました。また、東京彫りは同時代の奥野一香や次世代の宮松影水、金井静山、木村文俊らの名工を輩出して、高級駒の代名詞になりました。

1-2 天童将棋駒の発祥

全国の将棋駒生産量の大部分を占める天童特産の将棋駒産業のおこりは、江戸時代、旧天童藩士が内職として始めたことに由来するといわれています。

明和4年（1767年）、上野国小幡（現・群馬県甘楽町小幡）から出羽国高島（現・山形県高島町）に移封された織田氏は、所領2万石のうち3分の2に近い1万2千余石は、天童を中心とする村山地方に有していました。

天保2年（1831年）に高島から天童に移館し、さらに嘉永元年（1848年）には、高島にあった領地も所領交換により村山に集中するようになり、実質的に天童織田藩が実現しました。

しかし、2万石の所領20ヶ村は村山各地に散在しており、その支配統制には大きな困難と支障がありました。その上、連年の凶作もあって家臣200余人をかかえる藩の財政は貧困をきわめました。藩では窮乏した財政を救うために、家臣の俸禄の削減（引高制）や、江戸詰家臣と交友関係にあった歌川広重（1797年～1856年）の肉筆絵を献上額に応じて頒布するなどのほかに、領民に対しては節約令を出して貢租（税金）の完納を呼びかけました。藩財政の窮乏は家臣の家計を圧迫し、特に下級藩士は生活に困り、内職によって家計を補いました。将棋駒製作もその一つでした。

当時、織田藩の用人職にあり、のちに勤王の志士として知られた吉田大八は、その受ける扶持だけでは生活できなかつた藩士に、それまで藩内で行われていた将棋駒作りをより積極的に指導奨励しました。武士が手内職を営むことについては他の執政の反対にもあいましたが、吉田大八は、将棋は兵法戦術にも通じるとの考えから武士の面目を傷つけるものでないとして、その製造法を広く紹介しました。

天童将棋駒のルーツは、米沢藩から高島の織田藩に伝えられ、それが天童に移ってきたといわれ、また米沢藩は大阪から駒師を招聘して、駒作りが行われたと記録に残っています。



将棋駒産業の歴史

1-3 天童将棋駒の発展

手工業時代（発生～明治末期）

旧藩時代、家臣の内職として生産された将棋駒は、確実な販売組織にのった産業といえるものではありませんでした。将棋駒づくりが産業として確立したのは、明治維新により扶^ふ禄^{ろく}を離れた旧家臣、とくに長屋敷に住んでいた下級の家臣達が、すでに内職で習得していた将棋駒の製造技術（木^き地^じ作り・駒書き）を活用して、木地屋・書き屋の分業形態で将棋駒づくりを始めたことに起因します。

明治に入り卸^{おろしうり}売業を営む者も現れ、県内ばかりでなく、東京を中心とした県外にも販路を広げるようになりました。

明治初期の将棋駒製造は、家内工業として次第にその基礎を固めつつあったと思われま

す。明治末期までの天童将棋駒は、木地屋・書き屋を中心とした手工業生産で書駒だけの大衆駒であり、彫駒が中心である大阪の中級品や東京の高級駒とは対照的でした。

明治末期から大正にかけて、駒木地製造の各種機械が考案されて木地の一貫生産が始まると、地元問屋が製品を集荷して東京や大阪の問屋に送りました。しかし、中央の商人が製品を買い上げると自店の商品として全国に販売したため、天童将棋駒は意外に知られませんでした。当時の地元資本は中央の商人による前貸形態の契約販売であり、生産者の製品価格は全て中央の商人に支配されていました。

大量生産への準備時代（大正・昭和初期）

明治期における駒の製造は、鋸^{のこぎり}と鉋^{なた}による全くの手作業でした。しかし、手作業は玉切り・大割り・荒切り・小割りと駒一枚一枚を仕上げるのに手数のかかる工程であり、生産量に限りがありました。

このため、この製造過程を機械化しようとする試みは明治末期からすすめられてきました。駒屋（製造卸問屋）において生産の増大を目指し、駒木地の機械による試

作期に入ると、足踏式や動力による機械がつぎつぎに考案されました。

また、彫駒^{ほりごま}、押駒^{おしごま}（スタンプ駒）製法が天童に導入され、新製品による需要増は、さらなる生産増へと拍車をかけました。また、あいつぐ駒木地製造機械の開発によって大量生産時代の幕開けを迎えました。



木地関係は、このように先人の工夫努力により次第に機械による量産化がすすみましたが、書き屋の体制は依然として徒弟制度が続きました。



書き屋では、書き師の下で「書き子」と称する弟子が細い蒔絵筆^{まき え ぶで}を用いて、漆で草書体^{うるし}または楷書体で書いていきます。

はじめは、と金や歩兵から手がけて、金将・銀将や飛車、角行を書けるようになるまでには5年から10年を要しました。当時、書き賃が安価であったものの、よい小遣い銭になるため、小学3、4年生頃から書き屋に弟子入りして技術を身につける者が多かったといわれています。

当時の安価な駒書きの担い手は、学童であるといっってよいものでした。

大量生産時代（昭和初期から現在）

昭和10年頃から木地屋の工場設置の機械が電動化になり、また、簡易な手押し式の木地加工機具が普及して、駒木地は一層大量生産されるようになりました。

それらの木地は、駒屋を通して多くの内職の手にまわされて製品にされました。



将棋駒産業の歴史

時代と共に変動する産業

満州事変以後、戦争が拡大するにつれて、慰問品としての将棋駒の需要が急増しました。天童では書駒が大量生産され、明治末期に発案された軍人駒（行軍将棋）^{こうぐん}の製造も含めて、これに対処しました。

一方、大阪商人も押駒（スタンプ駒）を考案して生産しましたが需要に応じ切れず、天童に製造を依頼しました。天童では、スタンプインクに工夫をして見栄えを良くしたほか、木地の量産化により安い価格で提供しました。大阪の押駒は対応が遅れ、その製造は天童が一手に占めるようになり、天童駒の名が全国に広がりました。

戦後から昭和30年代にかけて、業界は最盛期を迎えます。量的には押駒、書駒（楷書体）が主でしたが、次第に彫駒^{ほりごま}の生産が増えました。使用材も従来の「ほお」「はびろ」「いたや」「まき」等のほか「あおか」や「シャムツゲ」などの新材も使われ、字形、木地、仕上げの様々な組合せで、豊富な製品を揃え需要の拡大を図りました。

しかしその後、昭和48年の第1次オイルショックを境に、大衆のニーズが高品質指向になったことや、彫駒の普及で購買サイクルが伸びたこと、昭和50年代からのテレビゲームの普及による将棋人口の減少等に対する対応が遅れたこと、また、天童は大衆駒の生産地というイメージがマイナスに作用して需要が減少し、押駒、書駒などは急速に衰退していきました。それに伴って木地屋の機械設備の稼働率が低くなり、廃棄されるものも出てきました。

こうしたなか、天童伝統の草書体の書駒は、一時、全く書かれなくなってしまいましたが、近年、草書の味が見直され、現在では、わずかながら書き継がれています。

現在も生産量の多くは押駒（印刷を含むスタンプ駒）が占めています。一方、将棋駒生産の中心的製品は彫駒ですが、その大半は機械生産によるもので、手仕事による担い手は数えるほどになりました。

天童の彫駒^{ほりごま}

天童の「彫駒」の歴史は比較的浅く、大正初めに印章業をしていた三河金次郎（金光）が印鑑彫りの技術を生かして、古印体等の字形の駒を作りました。

数年遅れて、竹内七三郎が東京の奥野一香^{おくのいっさよう}のもとで東京彫りを習い、その技術を天童に導入しました。書体は年代から考えると「金竜」を主とするごくわずかな種類だったと思われます。木地の大きさは金竜形といわれる現在のものより小振りの形で、標準形として使われました。

大正から戦前にかけて大阪から略字体や簡便な製造方法が入ると、誰でも内職できるように工夫がなされていきました。字形は、簡略度によって並彫^{なみぼり}、中彫^{ちゅうぼり}、上彫^{じょうぼり}



と整理され、書体名が入るものを銘彫^{めいぼり}の駒（銘駒）といい、彫る人の熟練度に従って手掛ける木地や字形が決まりました。

昭和15年頃には、彫りの目止めとして、赤く変色する欠点のあったカキシブにかわってニカワが使われるようになりました。

昭和30年代までは押駒、書駒中心でしたが、それらの材料には「ほお」や「はびろ」が使われ、彫駒には「いたや」「まき」が使われました。

昭和30年頃、外材の「シャムツゲ」が導入され、次第に「まき」のかわりに使われるようになりました。「ほお」「はびろ」「あおか」等の木地は機械生産だったのに対し、「まき」や「シャムツゲ」はナタ切りで作られました。この頃、彫りの目止めとして水に溶ける欠点のあったニカワのかわりにボンドが使われるようになりました。



将棋駒産業の歴史



第63期 棋聖戦第1局 羽生棋聖と谷川王将の対局の様子

昭和40年代に入ると、生産の重点が彫駒に移り、彫埋、盛上の技術が研究され、製品化されました。それによって、より多くの書体が使われるようになりました。

材料も上物には本黄楊ほんつげの薩摩黄楊さつまつげ、御蔵島黄楊みくらじまつげが多く使われ、木地加工もナタ切りにかわって精密

な機械加工へと変わりました。

一方、手仕事による彫駒の分野にも機械彫りが導入され、第1次オイルショックを境に大きな転換期を迎えました。

現在では、依然として「ほお」や「あおか」を使った押駒が量的に主流です。シャムツゲが輸入されなくなっからは、低価格な彫駒には「いたや」「さくら」「おのおれ」が使われています。それらの木地のほか、本黄楊も機械で彫られており、彫駒のうち機械彫りは全体の90%以上を占めています。一方、職人技による手彫りの分野は、ほりうめごま 彫埋駒や もりあげごま 盛上駒など、より高品質、高付加価値の製品に向かっています。

1-4 天童将棋駒の現状と課題

天童将棋駒は長い歴史と伝統を誇り、産業、経済、文化、教育等あらゆる面で市勢発展の要として極めて重要な役割を果たしてきました。

とりわけ桜まつりの期間中に舞鶴山で行われる「人間将棋」や「百面指し」などの将棋イベント、市内外での物産展、実演、天童温泉と一体的なPR等により、「将棋のまち天童」を全国に発信しており、まさに天童将棋駒は伝統的^{ひゃくめんさ}手工芸の技と力が息づく天童市のシンボルといえます。

しかしながら、近年は余暇活動の多様化やニーズの変化等から需要が低迷し、製造・販売の面においても伸び悩みの傾向にあります。

今後、伝統工芸としての将棋駒の技術、技法を後世に継承発展させるため、「後継者の育成・確保」「技術・技法の継承や改善」「販路の開拓」等の課題を解決するなかで、伝統地場産業として一層の振興を図っていく必要があります。

このような中で、平成8年4月に通商産業大臣指定（現・経済産業大臣指定）の「伝統的工芸品」として天童将棋駒が指定を受けました。その結果、後継者の育成や需要開拓などの事業に国の助成や支援を受けられることになりました。

天童市も天童将棋駒のさらなる発展及び次世代を担う将棋駒職人の養成に向け、山形県将棋駒協同組合と天童将棋駒後継者育成講座を開催するなどさまざまな施策に取り組んでいます。



後継者育成講座の様子



将棋駒産業の歴史

●天童の将棋駒 生産額の推移

・ 明治 13 年～昭和 37 年 天童市史

年次 項目	明治13	昭和10	昭和26	昭和31	昭和35	昭和37
生産額	1,206 ^円	3,704 ^円	2,000 ^{万円}	3,000 ^{万円}	6,000 ^{万円}	8,500 ^{万円}

・ 昭和 40 年～平成 25 年 市工業統計（工業統計は製造卸売業者のみ）

年次 項目	昭和40	昭和45	昭和55	昭和56	昭和57	昭和58
生産額	10,200 ^{万円}	21,100 ^{万円}	47,131 ^{万円}	44,380 ^{万円}	41,108 ^{万円}	38,517 ^{万円}

年次 項目	昭和59	昭和60	昭和61	昭和62	昭和63	平成元
生産額	31,086 ^{万円}	28,794 ^{万円}	30,214 ^{万円}	30,438 ^{万円}	33,060 ^{万円}	33,600 ^{万円}

年次 項目	平成2	平成3	平成4	平成5	平成6	平成7
生産額	32,981 ^{万円}	36,934 ^{万円}	36,329 ^{万円}	34,479 ^{万円}	30,290 ^{万円}	31,547 ^{万円}

年次 項目	平成8	平成9	平成10	平成11	平成12	平成13
生産額	32,719 ^{万円}	32,618 ^{万円}	26,763 ^{万円}	23,171 ^{万円}	21,498 ^{万円}	19,924 ^{万円}

年次 項目	平成14	平成15	平成16	平成17	平成18	平成19
生産額	19,556 ^{万円}	19,082 ^{万円}	17,258 ^{万円}	16,096 ^{万円}	14,502 ^{万円}	14,394 ^{万円}

年次 項目	平成20	平成21	平成22	平成23	平成24	平成25
生産額	14,725 ^{万円}	13,617 ^{万円}	12,764 ^{万円}	東日本大震災のため統計なし	13,680 ^{万円}	13,546 ^{万円}

・ 平成 26 年～ 山形県将棋駒協同組合 調べ

年次 項目	平成26	平成27	平成28	平成29	平成30	令和元
生産額	18,650 ^{万円}	30,120 ^{万円}	29,980 ^{万円}	27,400 ^{万円}	26,500 ^{万円}	22,070 ^{万円}

2. 将棋駒の生産

2-1 原木の種類

駒木地として多種類の木材が使用されますが、押駒は主に「ほお」「あおか」、書駒と彫駒は「いたや」「おのおれ」〔ほんつげ〕等が使われます。彫埋駒、盛上駒には主に本黄楊である〔みくらじまつげ〕が使われています。

以前、中級品に多く使われていた東南アジア産の「シャムツゲ」は、原産国の環境保護などから輸出禁止になり、現在は在庫品だけの流通になっています。そのため、「さくら」「おのおれ」などの新たな材料も試されています。

原木の産地は、「ほお」「あおか」「いたや」などの雑木類が岩手、秋田、青森の東北各県、薩摩黄楊が鹿児島県、御蔵島黄楊が東京都です。

本黄楊	高級品用で、御蔵島(東京都産)や薩摩(鹿児島県産)が多い。
シャムツゲ	中級品用で、タイ、カンボジア産である。
まき(マユミ) ほお(ホオノキ) はびろ(ハクウンボク) あおか(ウリハダカエデ) いたや(イタヤカエデ) さくら(サクラ) おのおれ(ダケカンバ)	普及品、中級品用で、東北各県産が多い。



御蔵島の黄楊林

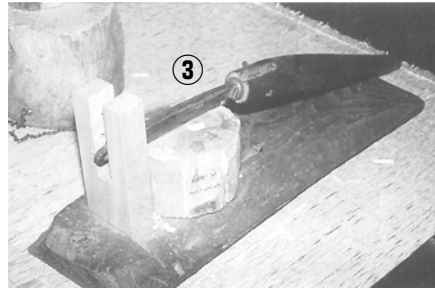
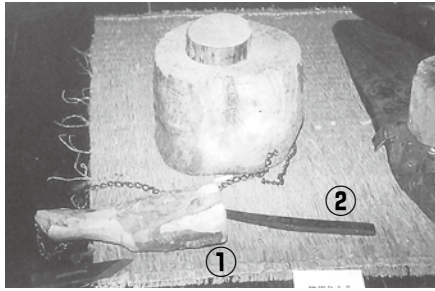


木目をそろえた駒木地(御蔵島黄楊)

2-2 駒づくりの道具

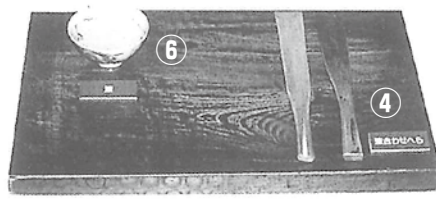
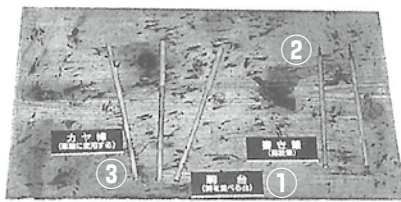
現在、ナタ切りにより駒木地を作る人はいなくなりました。

■駒木地造りの道具



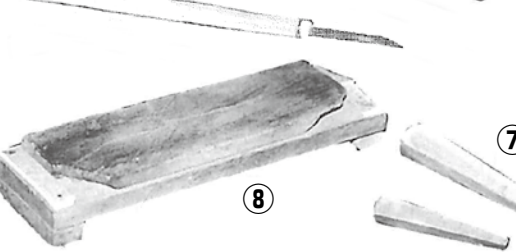
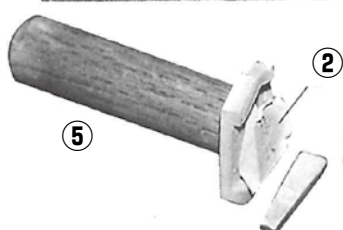
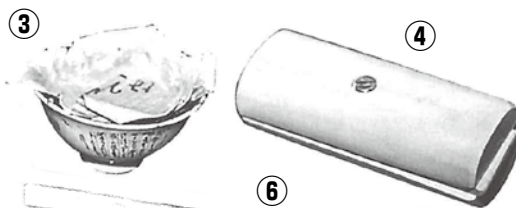
- ①大割り棒
- ②大割ナタ
- ③コマ切りナタ

■書駒作りの道具



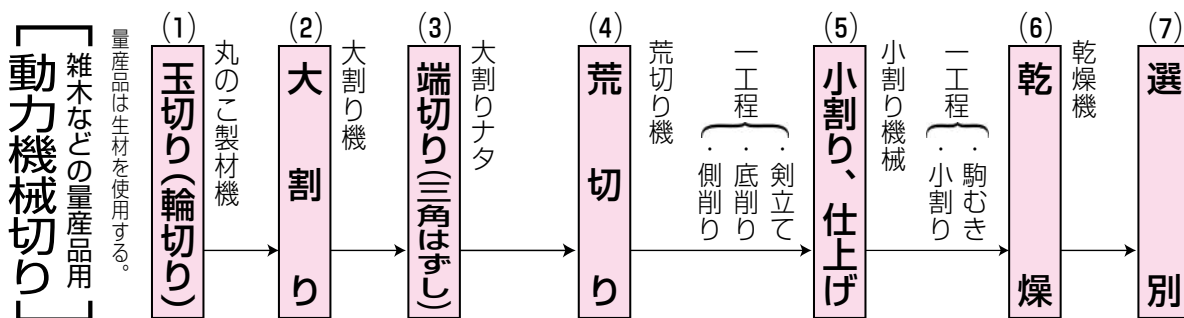
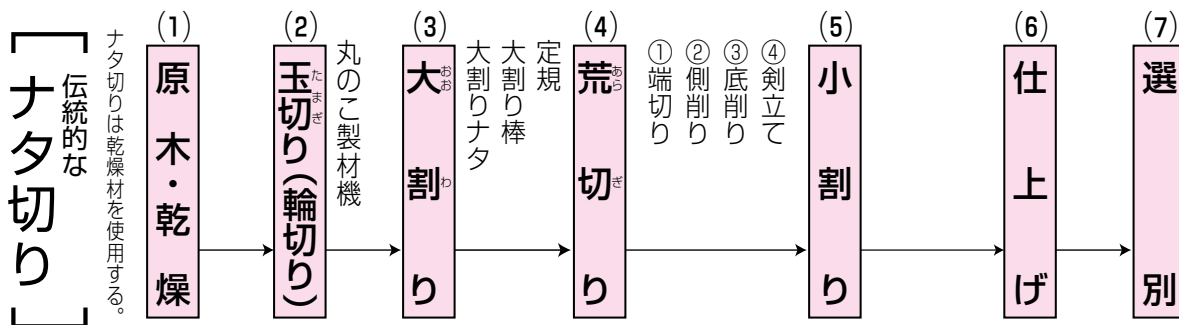
- ①駒台（駒を並べる台）
- ②漆筆
- ③カヤ棒（筆軸に使用する）
- ④漆べら（漆を練り合わせる）
- ⑤漆つぼ
- ⑥漆
- ⑦松煙粉（マツボコリ）

■彫駒作りの道具



- ①字形印
（印押しで字母紙を作る）
- ②字母紙（駒に貼る紙）
- ③漆
- ④銘入れ台
- ⑤駒彫り台
- ⑥印刀
- ⑦くさび
- ⑧砥石

2-3 駒木地づくりの工程



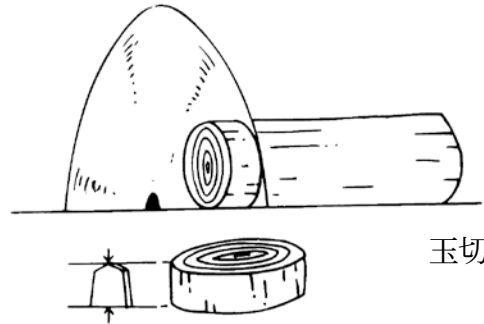
将棋駒の生産

ナタ切りにより木地を生産する手切法を図示します。現在、手切法は姿を消しましたが、機械製造においても基本的な工程は同じです。

(1) 原木・乾燥

(2) 玉切り (輪切り)

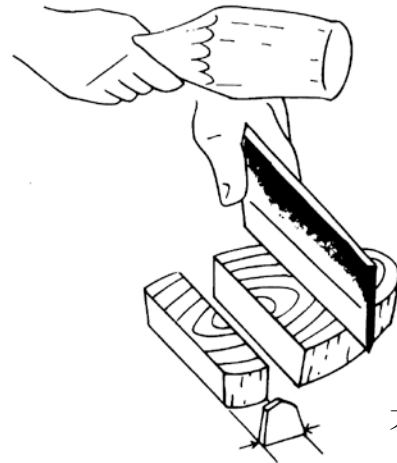
原木を駒の高さの寸法に輪切りする。



玉切り

(3) 大割り

玉切りした材を、駒の幅の寸法に合わせて木目に沿って割っていく。



大割り

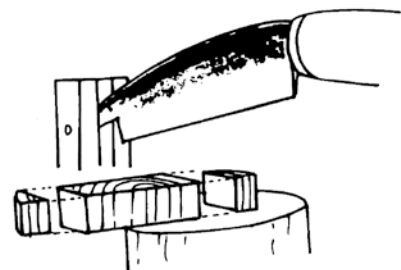
(4) 荒切り

コマ切りナター丁で (6) までの工程を行う。

荒切りの工程によって、駒型の切り口をした長い材ができる。

(4) - A 端切り

材の両端を切り落として、直方材にする。



端切り

(4) - B 側削り

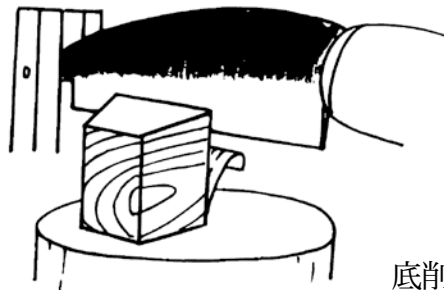
ナタを傾け、両側面を削って
台形にする。



側削り

(4) - C 底削り

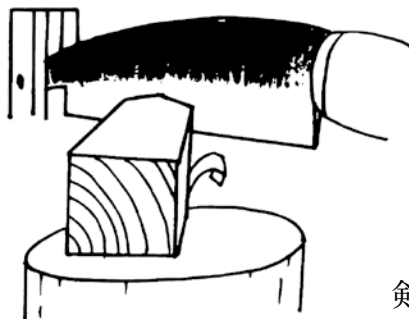
駒の底に当たる部分を平らに削る。



底削り

(4) - D 剣立て

駒の上方に当たる部分を山型に
削り出す。



剣立て

(5) 小割り

荒削りした材を1枚1枚切り離す。

(6) 仕上げ

1枚ずつ、両表面を仕上げる。

(7) 選別

選別して不良の駒を除く。



小割り
仕上げ



将棋駒の生産

2-4 将棋駒の種類と工程



将棋駒の種類

おしごま 〈押駒 (スタンプ駒)〉

昭和の初め頃から生産され、駒木地に直接スタンプ（ゴム印）を押したものです。

かきごま 〈書駒〉

書駒は、漆で駒木地に文字を直接書いたもので、書体は楷書と草書があります。天童駒の伝統は、草書体の書駒です。

「草書」の書駒は、通称「ばん た ろ う ご ま番太郎駒」と呼ばれていますが、その言葉の由来は江戸時代にさかのぼります。江戸の町には「き ど木戸」が設けられ、「番太郎」と呼ばれる番人がいました。

この番太郎たちが指す将棋のことを番所将棋といい、それに使う安物の駒を「番太郎駒」や「番太駒」と呼びました。

東京では、明治・大正生まれで将棋を指したことがある人の間で、この名称が一



一般的に使われていたようです。

近年、天童伝統の「草書」を「番太郎駒」と呼ぶようになりましたが、天童の駒職人の間では使われたことのない呼び方であり、天童では古くから「草書」と呼んでいました。

また、駒文字の色分けにより「源平駒」（表は黒、裏は赤）、「咲分け駒」（表の上方が赤で下方が黒、裏は赤）、「朱書駒」（表裏とも赤）と呼んでいます。

ほりごま 〈彫駒〉

彫駒には「機械彫り」と「手彫り」があり、製作工程も作り手により多少の違いが見られますが、「手彫り」の工程はおおむね次の通りです。

◎中級・普及品

字母紙作成（印押し）→字母紙貼り→彫り→目止め→漆入れ（代用品を使う場合あり）→水研ぎ^{みずと}→乾燥

◎高級品

字母紙作成（手書きもしくは印押し）→字母紙貼り→彫り→目止め→漆入れ→研出し^{けんだし}→瀬戸引き^{せとび}→磨き



字形の簡易度により、並彫^{なみぼり}、中彫^{ちゅうぼり}、上彫^{じょうぼり}と分けています。

なお、「ほお」などの駒木地に、インク付きの駒文字金型を押し付けただけの簡便な黒彫もあります。

このほか、水無瀬、錦旗、淇州など、昔から格式のある書体を用いたものは、銘彫^{めいぼり}の駒（銘駒）と呼ばれています。

将棋駒の生産

彫埋駒

彫り上がった駒に、生漆と砥粉を練りあわせた錆漆で調合した下地漆を入れて乾燥させるという工程を数回にわたって行い、研磨紙の番数の粗いものから細かい方に数段階に分けて砥ぎ出した後に、「瀬戸うずくり」等を使ってなめらかに（瀬戸引き）仕上げたものです。



盛上駒

彫埋め研出した駒に、蒔絵筆（ねこ、ねずみ等の毛で作られた漆工専門の筆）を使って文字を漆で浮き出たせ、乾燥のあと入念に磨いたものです。技術的に難しく、プロの対局に使われる最高級品です。



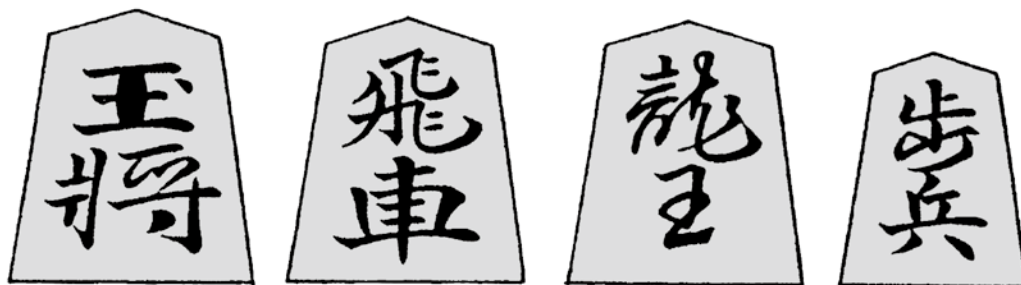
2-5 銘の種類

駒の銘めいとは作者名のある書体のことで、楷書、行書、草書、隸書れいしよ、篆書てんしよなどの種類があります。現在は行書体が一番多く用いられていますが、ここでは特に文字が美しいと評価の高い銘を説明します。

江戸時代まで

(1) 水無瀬みなせ

16世紀末（安土桃山時代末期）、水無瀬兼成みなせかねなりがおおぎまち正親町天皇の命により書き作ったのがその始まりといわれ、その養子親具ちかとももとよとみひでつぐ関白豊臣秀次の命により銘を書いています。水無瀬家で作られた一連の駒を「水無瀬駒」といい、「駒の銘は水無瀬を家となす」といわれ、駒銘の源流になっています。



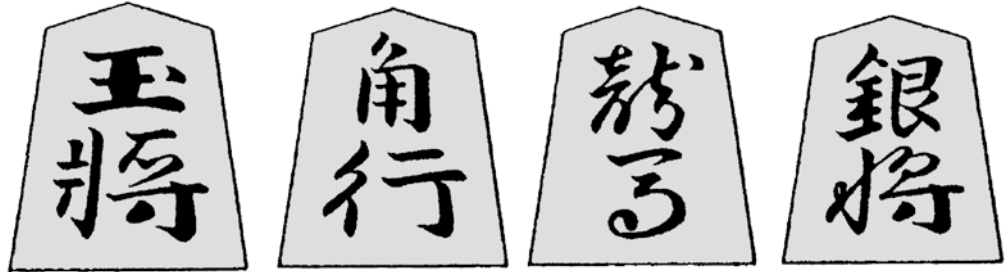
(2) 錦旗きんき

最初に「錦旗」と呼称されたのは、竹内淇州たけのうちのしゅうの駒で、後に十三世名人になる関根名人に贈りました。関根名人は、この駒を使い向かうところ敵なしだったところから、誰ということなく「錦旗の駒」と呼ばれました。

現在「錦旗」といわれるのは、後水尾天皇ごみずのお（1596年～1680年）御宸筆ごしんぴつの駒が、大正時代に将棋宗家大橋家そうけから十二世名人小野五平こしゅうくの手を通じて旧黒田侯爵家に渡り、黒田家の依頼により豊島龍山とよしまりゅうざんが模写制作したものとされています。

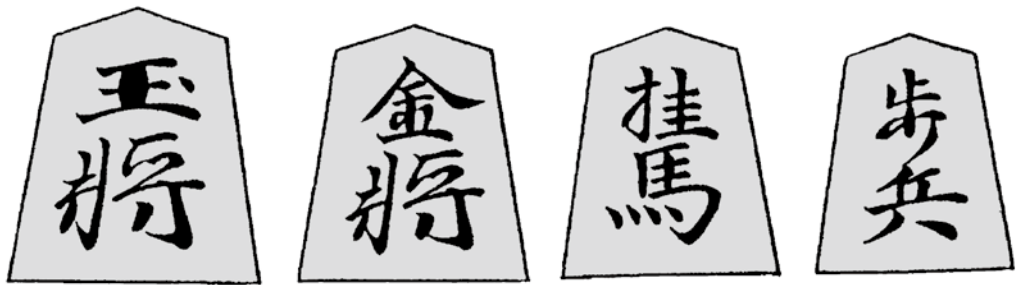
その後、奥野一香おくのいっきょうは、昇龍齋しょうりゅうさいの書体を「錦旗」の銘を入れて作りました。

将棋駒の生産



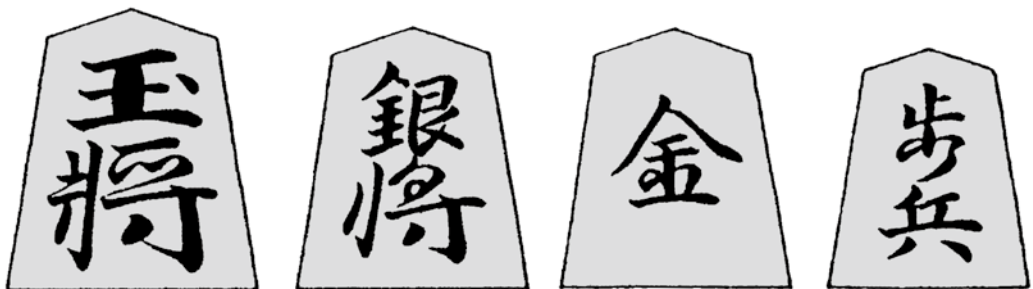
(3) げん べい きよやす 源兵衛清安

戦前に豊島龍山が作っていますが、詳しいことは分かっていません。



(4) きよやす 清安

太字を得意とする書体ですが、詳しいことは分かっていません。

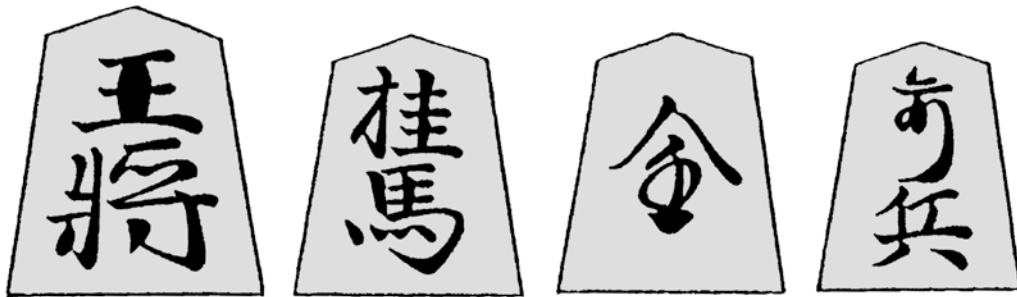


(5) 安清^{やすきよ}

天童の草書体の字形とよく似た書駒や、水無瀬形の書駒、彫駒、雛道具の駒まで、多種多様な駒を作っています。一人の駒師ではなく、長い年代にわたる職人集団によるものと推測され、江戸時代を代表する駒銘です。

(6) 清定^{きよさだ}

江戸時代から伝わっている銘ですが、詳しいことは分かっていません。



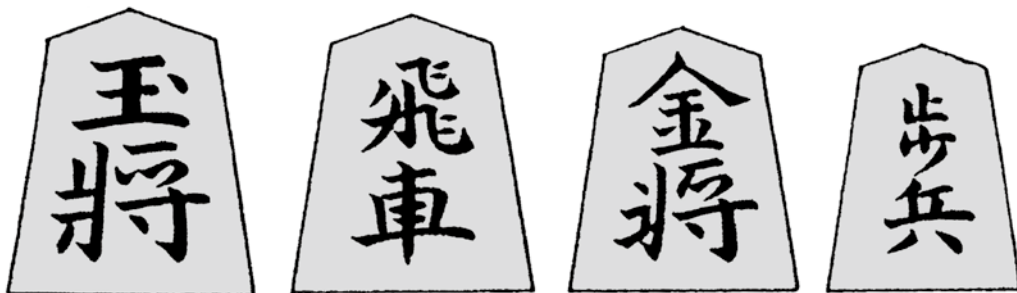
(7) 真竜^{しんりゅう}

江戸時代末期から明治にかけての駒師ですが、詳しいことは分かっていません。

(8) 金竜^{きんりゅう}

金竜は駒師の号です。初代は町井利左衛門^{まちいりざえもん}ですが、詳しいことは分かっていません。

二代目は掛川藩主太田資始(備後守)の次男の五郎左衛門氏治で、文政10年(1827)生まれ。嘉永5年、26才の時に初代から技法を学び、文久3年、37才の時に二代目金竜を名乗りました。金竜が作った市河米庵^{いちかわべいあん}の書体が、金竜の銘におきかわったともいわれています。

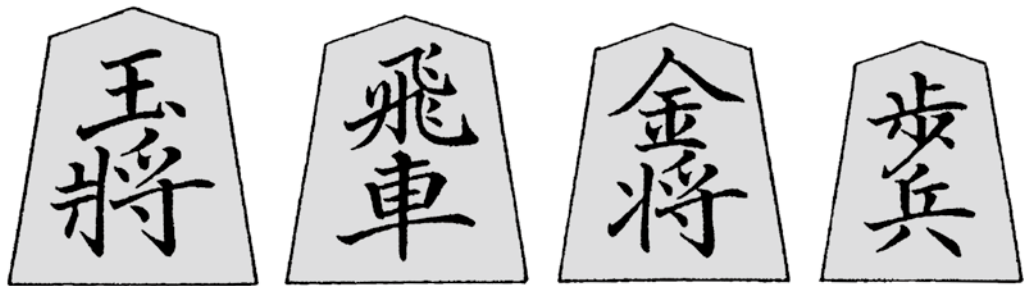




将棋駒の生産

(9) 巻菱湖 (1777年～1843年)

江戸時代の書家。天保14年没。貫名海屋、市河米庵と共に江戸時代の三大書家といわれています。



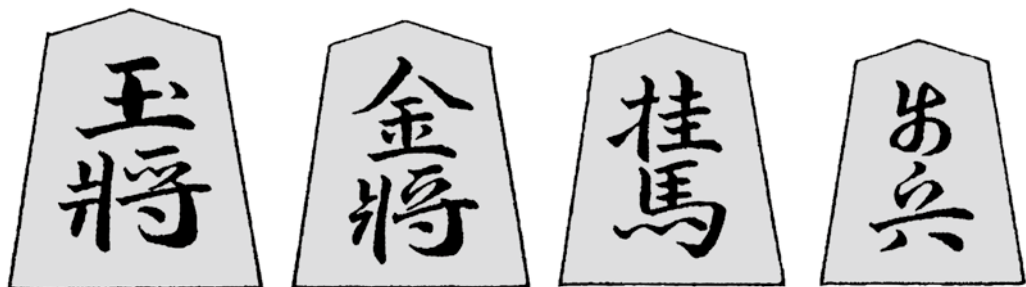
(10) 市河米庵 (1779年～1857年)

江戸時代末期の書家で、金竜が米庵の銘で駒を作りました。現在「金竜」の銘で作られている元の書体といわれています。

(11) 松本董斎

名は正義で、大阪の中井董斎に師事しました。明治3年没。享年不明。長男董仙は天野宗歩門で段位五段。次男竹朗は七段で、名人候補と目されました。

真竜造や正浄造の駒の銘に見られます。



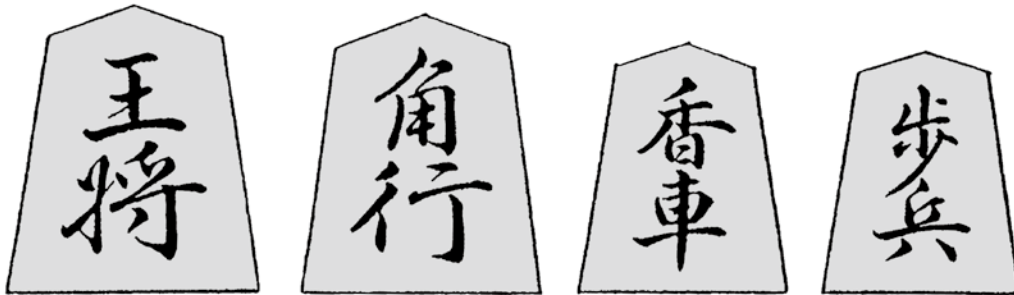
明治以後

(1) 董仙^{とうせん}

董齋の長男で五段に昇りましたが、経歴など詳しいことは分かっていません。

(2) 小野鷺堂^{おのがどう}

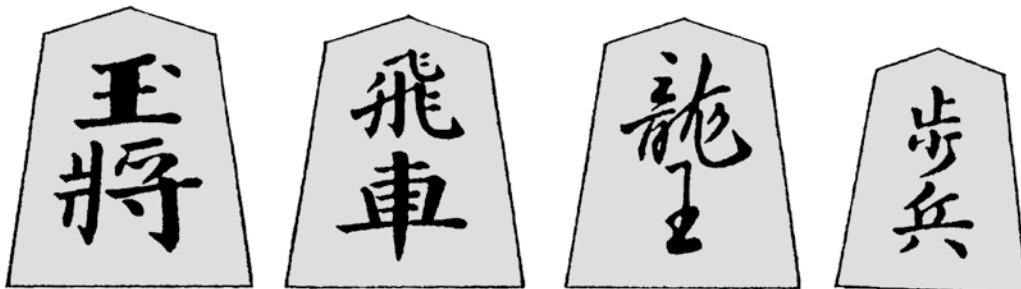
平仮名の大家で、表は行書体に近く、裏は草書です。



(3) 竹内淇州^{たけのうちきしゅう}

山形県酒田で活躍した人で、文武両道に優れていました。特に、将棋は時の名人に互角の実力を持ち、八段まで昇った人です。十三世名人になる関根金次郎八段に淇州筆による駒を贈り、これが後に「錦旗の駒」のいわれになったのは有名な話です。

淇州の駒が双玉である理由は「王は王にして将にあらず、玉は宝の王なり金銀之に次ぐとの故事もあり、御上覧の際は必ず両方とも玉字である」とした事を守っているためです。



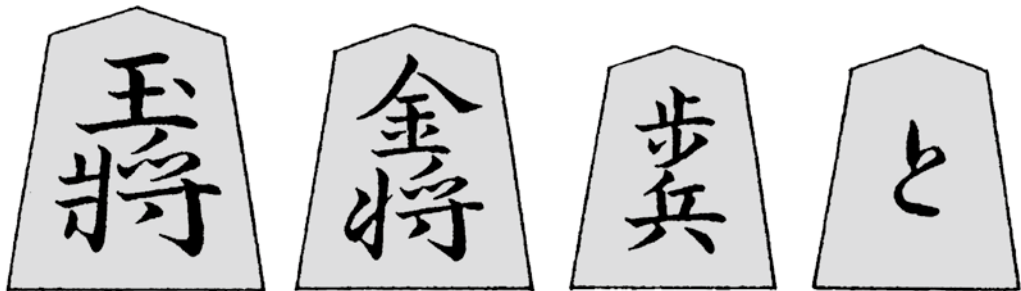


将棋駒の生産

(4) 関根十三世名人

十三世名人

関根金次郎の書によるものです。



(5) 昇龍齋

明治時代の人で本職は三味線ひきでした。奥野一香おくのいっきょうが錦旗駒きんきとして昇龍齋の銘で売り出したものです。

(6) 鰭崎英朋

浮世絵師で、隸書体です。

(7) 峯

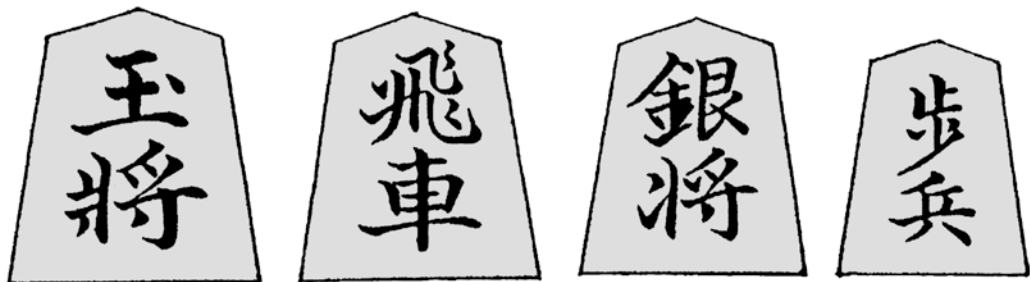
旧朝鮮総督府の役人です。

(8) 三田玉枝

書家で、銘は篆書です。

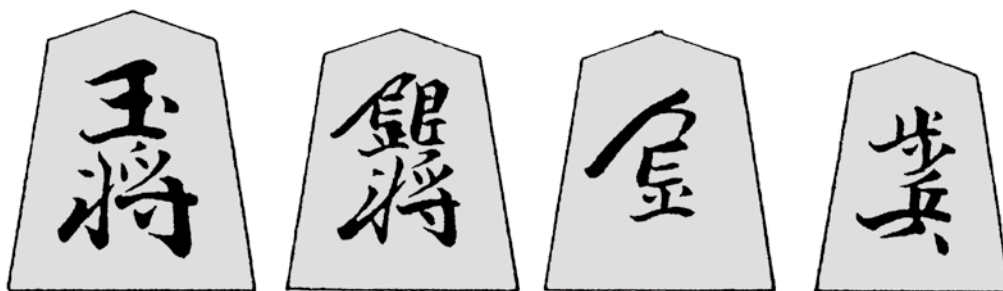
(9) 三邨

明治時代の官吏、熊谷直光号三邨の筆跡。



(10) 守田長禄

東京上野池ノ端の薬店「宝丹」の主人です。



(11) 木村十四世名人

十四世名人

木村義雄の書によるものです。

他に無劍、玉舟、山華石、探山、篁輝、英歩などの銘も伝えられています。また、大山十五世名人や現役棋士の中原誠永世十段（永世棋聖）の書体もあります。



3. 天童将棋駒資料編

■観光と将棋

●人間将棋

昭和31年からはじめられたこの行事は、毎年4月末に桜が満開の舞鶴山で華やかに繰り広げられます。

内 容	実施年月日	備 考
将棋野試合	昭和31.4.22	
	32.4.27	
	33.4.29	将棋供養 僧侶 20 数名参加
	34.4.25	
	35.4.24	第9期王将戦棋譜公開
	36.4.29	
	37.4.22	
	38.4.28~29	東映女優数名参加
	39.4.26	
40.4.18	全日本アマチュア将棋野試合	
人間将棋野試合	41.4.24	山頂広場の整備が始まる
人間将棋	42.4.23	アマチュア将棋大会
	43.4.28	
	44.4.26~27	大道将棋 人間将棋他流試合
	45.4.26	王将太鼓 懸賞詰将棋
	46.4.24	子供将棋大会
	47.4.22~23	大盤解説 大内延介八段
	48.4.21~22	人間将棋会場が山頂広場に移る 大山康晴名人段級認定将棋大会 将棋塔供養祭
	49.4.20~21	ゲスト 花村元司八段 田辺一鶴
	50.4.19~20	ゲスト 丸田祐三九段 田辺一鶴
	51.4.24~25	ゲスト 森雞二八段 大友昇八段 三井由美子
	52.4.23~24	ゲスト 中原誠名人 みづきあい
	53.4.22~23	ゲスト 二上達也九段 長良いづみ
	54.4.21~22	ゲスト 勝浦修八段 山内恵美子
	55.4.26~27	ゲスト 有吉道夫九段 葵ひろこ
	56.4.25~26	ゲスト 大内延介八段 横須賀昌美
	57.5.2~3	ゲスト 桐山清澄八段 小牧たか子
	58.4.23~24	ゲスト 青野照市八段 清水クーコ ピップアップ
	59.4.21~22	ゲスト 真部一男七段 由岐ひろみ
	60.4.27~28	ゲスト 加藤一二三王位 松原のぶえ
	61.4.26~27	ゲスト 勝浦修九段 高橋亜貴子
	62.4.25~26	ゲスト 森雞二九段 やや
	63.4.23~24	ゲスト 関根茂九段 山瀬まみ

内 容	実施年月日	備 考
人間将棋	平成元.4.22~23	ゲスト 森安秀光九段 山崎真由美
	2.4.21~22	ゲスト 有吉道夫九段 坪内利幸六段 坂上忍
	3.4.20~21	対局者 羽生善治棋王 屋敷伸之棋聖
		ゲスト 大山康晴十五世名人 森下卓六段 ゆうゆ
	4.4.25~26	対局者 中川大輔五段 森内俊之五段
		解説 青野照市八段 ゲスト 桑野信義
	5.4.24~25	対局者 屋敷伸之六段 先崎学五段
		解説 石田和雄九段 ゲスト パンプキン
	6.4.23	対局者 中井広恵女流名人 林葉直子倉敷藤花 高橋道雄九段
	6.4.24	対局者 郷田真隆五段 深浦康市四段
		解説 高橋道雄九段
	7.4.22	対局者 斎田晴子女流王将 山田久美女流二段
		解説 日浦市郎六段 (悪天候により公開対局)
	7.4.23	対局者 日浦市郎六段 佐藤秀司五段
		解説 米長邦雄九段
	8.4.20	対局者 中井広恵女流王将 斎田晴子女流三段
	8.4.21	解説 真田圭一五段 行方尚史五段
		対局者 中原誠永世十段
	9.4.19	対局者 清水市代女流四冠 高郡佐知子女流二段
		解説 藤井猛六段
	9.4.20	対局者 藤井猛六段 久保利明五段
		解説 内藤國雄九段
	10.4.25	対局者 斎田晴子女流王将 林まゆみ女流二段
解説 杉本昌隆五段		
10.4.26	対局者 杉本昌隆五段 飯塚祐紀五段	
	解説 加藤一二三九段	
11.4.24	対局者 矢内理絵子女流三段 木村さゆり女流二段	
	解説 三浦弘行六段	
11.4.25	対局者 三浦弘行六段 豊川孝弘五段	
	解説 羽生善治四冠	

内 容	実施年月日	備 考
人 間 将 棋	平成12. 4. 22	対局者 清水市代女流王位・倉敷藤花 船戸陽子女流初段 解説 近藤正和四段
	12. 4. 23	対局者 木村一基五段 近藤正和四段 解説 内藤國雄九段
	13. 4. 21	対局者 高橋和女流二段 本田小百合女流初段 解説 阿部隆七段
	13. 4. 22	対局者 阿部隆七段 勝又清和五段 解説 藤井猛竜王
	14. 4. 20	対局者 碓井涼子女流二段 中倉彰子女流初段 解説 屋敷伸之七段
	14. 4. 21	対局者 屋敷伸之七段 中座真五段 解説 郷田真隆棋聖
	15. 4. 19	対局者 山田久美女流三段 中倉宏美女流初段 解説 神吉宏充六段
	15. 4. 20	対局者 先崎学八段 神吉宏充六段 解説 島朗八段
	16. 4. 24	対局者 古河彩子女流初段 安食聡子女流初段 解説 木村一基七段
	16. 4. 25	対局者 木村一基七段 川上猛五段 解説 谷川浩司二冠
	17. 4. 23	対局者 中井広恵女流王将 岩根忍女流初段 解説 渡辺明竜王
	17. 4. 24	対局者 渡辺明竜王 山崎隆之六段 解説 森下卓九段
	18. 4. 22	対局者 千葉涼子女流王将 甲斐智美女流初段 解説 野月浩貴七段
	18. 4. 23	対局者 野月浩貴七段 村山慈明四段 解説 中原誠永世十段
	19. 4. 21	対局者 矢内理恵子女流名人 北尾まどか女流初段 解説 松尾歩六段
	19. 4. 22	対局者 鈴木大介八段 松尾歩六段 解説 佐藤康光二冠
	20. 4. 19	対局者 船戸陽子女流二段 島井咲緒里女流初段 解説 片上大輔五段
	20. 4. 20	対局者 橋本崇載七段 片上大輔五段 解説 屋敷伸之九段
	21. 4. 18	対局者 里美香奈 倉敷藤花 上田初美女流二段 解説 村山慈明五段
	21. 4. 19	対局者 井上慶太八段 村山慈明五段 解説 藤井猛九段
	22. 4. 17	対局者 本田小百合女流二段 中村桃子女流一級 解説 戸辺誠六段
	22. 4. 18	対局者 戸辺誠六段 阿部健治郎四段 解説 木村一基八段

内 容	実施年月日	備 考
人 間 将 棋	平成23. 4. 13~24	東日本大震災の影響により中止
	24. 4. 21	対局者 上田初美女王 鈴木環那女流初段 解説 広瀬章人七段
	24. 4. 22	対局者 広瀬章人七段 佐藤天彦六段 解説 遠山雄亮五段
	25. 4. 20	対局者 早水千紗女流三段 山口恵梨子女流初段 解説 中村太地六段
	25. 4. 21	対局者 行方尚史八段 中村太地六段 解説 木村一基八段
	26. 4. 26	対局者 甲斐智美女流二冠 鈴木環那女流二段 解説 深浦康市九段
	26. 4. 27	対局者 深浦康市九段 金井恒太五段 解説 鈴木大介八段
	27. 4. 25	対局者 上田初美女流三段 藤田綾女流初段 解説 木村一基八段 戸辺誠六段
	27. 4. 26	対局者 糸谷哲郎竜王 戸辺誠六段 解説 ゲスト 木村一基八段 つるの剛士
	28. 4. 23	対局者 竹部さゆり女流三段 飯野愛女流一級 解説 遠山雄亮五段
	28. 4. 24	対局者 郷田真隆王将 阿久津主税八段 解説 ゲスト 遠山雄亮五段 波戸康弘将棋親善大使 PONANZA (山本一成)
	29. 4. 22	対局者 室谷由紀女流二段 中村桃子女流初段 解説 阿部健治郎七段
	29. 4. 23	対局者 三浦弘行九段 阿部健治郎七段 解説 ゲスト 藤井猛九段 神木隆之介(3月のライオン主演) 大友啓史監督
	30. 4. 21	対局者 香川愛生女流三段 カローリーナ・ステュエンスカ女流一級 解説 瀬川晶司五段
	30. 4. 22	対局者 屋敷伸之九段 山崎隆之八段 解説 ゲスト 瀬川晶司五段 加藤一二三 つるの剛士 阿部健治郎七段 北尾まどか女流二段
	31. 4. 20	対局者 宮宗紫野女流二段 加藤結季愛女流二級 解説 三枚堂達也六段
	31. 4. 21	対局者 斎藤慎太郎王座 三枚堂達也六段 解説 杉本昌隆八段
	令和 2. 4. 18~19	新型コロナウイルス感染症の影響により中止

※タイトル・段位は当時



天童将棋駒資料編

●プロ棋士タイトル戦 (天童市内での開催)

タイトル戦	開催年月日	場 所	局盤	対局者
王将決定戦	昭和26.2.9	佛向寺	6局	木村義雄 丸田祐三
王将戦	51.2.16~17	東松館紅の庄	4局	中原誠 有吉道夫
王将戦	53.2.2~3	〃	5局	中原誠 有吉道夫
名人戦	54.3.29~30	〃	2局	中原誠 米長邦雄
王将戦	55.2.28~29	〃	5局	大山康晴 加藤一二三
名人戦	56.4.23~24	〃	2局	中原誠 桐山清澄
名人戦	57.6.10~11	〃	6局	中原誠 加藤一二三
十段戦	59.11.14~15	滝の湯ホテル	3局	中原誠 米長邦雄
王将戦	60.1.16~17	東松館紅の庄	1局	中原誠 米長邦雄
十段戦	60.11.14~15	滝の湯ホテル	3局	中原誠 米長邦雄
十段戦	61.12.9~10	〃	5局	米長邦雄 福崎文吾
名人戦	62.6.11~12	東松館紅の庄	6局	中原誠 米長邦雄
棋聖戦	62.7.7	天童ホテル	3局	桐山清澄 西村一義
十段戦	62.11.25~26	滝の湯ホテル	4局	福崎文吾 高橋道雄
名人戦	63.6.13~14	東松館紅の庄	6局	谷川浩司 中原誠
竜王戦	平成元.10.26~27	滝の湯ホテル	2局	島朗 羽生善治
王将戦	2.3.29~30	東松館紅の庄	7局	南芳一 米長邦雄
棋聖戦	2.7.5	天童ホテル	3局	中原誠 屋敷伸之
王座戦	2.9.25	〃	3局	中原誠 谷川浩司
竜王戦	2.11.26~27	滝の湯ホテル	5局	羽生善治 谷川浩司
棋聖戦	3.7.8	天童ホテル	3局	屋敷伸之 南芳一
棋聖戦	4.12.21	〃	2局	谷川浩司 郷田真隆
竜王戦	5.12.8	滝の湯ホテル	6局	羽生善治 佐藤康光
棋聖戦	5.12.13	天童ホテル	1局	羽生善治 谷川浩司
王将戦	6.1.13~14	東松館紅の庄	1局	谷川浩司 中原誠
竜王戦	6.12.8~9	滝の湯ホテル	6局	佐藤康光 羽生善治
王将戦	7.3.13~14	東松館紅の庄	6局	谷川浩司 羽生善治
棋聖戦	7.7.8	天童ホテル	3局	羽生善治 三浦弘行
王将戦	10.2.18~19	東松館紅の庄	5局	羽生善治 佐藤康光
名人戦	11.6.16~17	〃	7局	佐藤康光 谷川浩司
竜王戦	11.11.4~5	滝の湯ホテル	3局	藤井猛 鈴木大介

タイトル戦	開催年月日	場 所	局盤	対局者
竜王戦	12.12.14~15	滝の湯ホテル	6局	藤井猛 羽生善治
王将戦	14.2.12~13	東松館紅の庄	3局	羽生善治 佐藤康光
竜王戦	14.12.18~19	滝の湯ホテル	5局	羽生善治 阿部隆
朝日オープン 選手権	15.4.3	天童荘	1局	堀口一史 深浦康市
レイスオープン トナメント2003	15.10.11	天童市 スポーツセンター	1局	清水市代 石橋幸緒
女流 王将戦	16.5.18	滝の湯ホテル	2局	中井広恵 石橋幸緒
名人戦	16.6.10~11	湯坊いちらく	6局	羽生善治 森内俊之
王座戦	16.10.13	松柏亭あづま荘	4局	羽生善治 森内俊之
竜王戦	16.12.15~16	滝の湯ホテル	6局	森内俊之 渡辺明
女流 王将戦	17.5.21	〃	2局	中井広恵 千葉涼子
女流 王将戦	18.5.28	〃	2局	中井広恵 千葉涼子
竜王戦	18.12.13~14	〃	6局	渡辺明 佐藤康光
王座戦	19.10.3	松柏亭あづま荘	3局	羽生善治 久保利明
竜王戦	19.11.28~29	滝の湯ホテル	5局	渡辺明 佐藤康光
名人戦	20.6.16~17	天童ホテル	6局	森内俊之 羽生善治
竜王戦	20.12.17~18	滝の湯ホテル	7局	渡辺明 羽生善治
王将戦	21.3.25~26	天童ホテル	7局	羽生善治 深浦康市
王座戦	21.9.25	松柏亭あづま荘	3局	羽生善治 山崎隆之
名人戦	23.6.7~8	天童ホテル	6局	羽生善治 森内俊之
王座戦	23.9.27	松柏亭あづま荘	3局	羽生善治 渡辺明
竜王戦	23.10.13~14	滝の湯ホテル	1局	渡辺明 丸山忠久
マイナビ 女子オープン	24.4.20	〃	2局	上田初美 長谷川優貴
竜王戦	24.10.15~16	〃	1局	渡辺明 丸山忠久
マイナビ 女子オープン	26.4.25	〃	3局	里見香奈 加藤桃子
名人戦	28.5.30~31	天童ホテル	5局	羽生善治 佐藤天彦
竜王戦	28.11.7~8	滝の湯ホテル	3局	渡辺明 丸山忠久
名人戦	30.6.19~20	天童ホテル	6局	佐藤天彦 羽生善治
名人戦	令和26.18~19	〃	2局	豊島将之 渡辺明

※上段：タイトル保持者
下段：挑戦者

●全国中学生選抜将棋選手権大会 (主催：公益社団法人天童青年会議所)

場所：滝の湯ホテル

回	開催年月日	参加人数	優勝者
1	昭和 55.8.18～19	64	松山 真也 (東京都)
2	56.8.11～12	64	小川 浩一 (埼玉県)
3	57.8.3～4	64	木下 浩一 (長野県)
4	58.8.3～4	64	小笠原充男 (神奈川県)
5	59.8.3～4	64	瀬川 晶司 (神奈川県)
6	60.8.3～4	64	鹿島 寛 (東京都)
7	61.8.3～4	64	庄司 弘光 (宮城県)
8	62.8.3～4	64	菅原 歩 (岩手県)
9	63.8.3～4	64	庄司 弘光 (宮城県)
10	平成元.8.3	64	川本 綱輝 (大阪府)
11	2.8.3～4	64	山田 一保 (新潟県)
12	3.8.3～4	64	野島 崇宏 (埼玉県)
13	4.8.3～4	64	西尾龍太郎 (東京都)
14	5.8.3～4	64	清水 上徹 (北海道)
15	6.8.3～4	64	菊池 隆 (福岡県)
16	7.8.3～4	64	金堂 晃久 (福岡県)
17	8.8.3～4	65	藤井 政範 (石川県)
18	9.8.3～4	64	菊田 公毅 (愛媛県)
19	10.8.3～4	64	池田 将之 (兵庫県)
20	11.8.3～4	男 64 女 32	山口 大志 (福岡県) 村田 智穂 (兵庫県)
21	12.8.3～4	男 64 女 26	今城 洋亮 (大阪府) 笠井 友貴 (長崎県)
22	13.8.3～4	男 64 女 30	高橋 淳 (奈良県) 貞升 南 (東京都)
23	14.8.3～4	男 64 女 30	古屋 皓助 (山梨県) 笠井 友貴 (長崎県)
24	15.8.3～4	男 56 女 31	塩田 誠 (徳島県) 室谷 早紀 (大阪府)
25	16.8.3～4	男 54 女 35	相良 剛史 (千葉県) 室田 伊緒 (愛知県)
26	17.8.3～4	男 54 女 37	山田 雄介 (大阪府) 室谷 早紀 (大阪府)

回	開催年月日	参加人数	優勝者
27	平成 18.8.3～4	男 53 女 34	児玉 星湖 (京都府) 香川 愛生 (東京都)
28	19.8.3～4	男 52 女 41	北村 直之 (東京都) 成田 弥穂 (宮城県)
29	20.8.3～4	男 53 女 39	北村 直之 (東京都) 成田 弥穂 (宮城県)
30	21.8.3～4	男 53 女 37	斉藤 優希 (北海道) 西山 朋佳 (大阪府)
31	22.8.3～4	男 53 女 40	友田 敦也 (静岡県) 山根ことみ (愛媛県)
32	23.8.3～4	男 52 女 45	神内 行人 (香川県) 山根ことみ (愛媛県)
33	24.8.3～4	男 53 女 40	袴田 卓 (兵庫県) 石本さくら (大阪府)
34	25.8.3～4	男 52 女 43	中島 灯希 (岐阜県) 迎 琉歌 (愛知県)
35	26.8.3～4	男 52 女 43	木村孝太郎 (青森県) 今井 絢 (愛知県)
36	27.8.3～4	男 52 女 44	白井 颯太 (静岡県) 今井 絢 (愛知県)
37	28.8.3～4	男 52 女 44	渡邊 東英 (山形県) 宮澤 紗希 (東京都)
38	29.8.3～4	男 52 女 47	橋本 力 (岩手県) 磯谷 祐維 (愛知県)
39	30.8.3～4	男 52 女 44	楠本 一斗 (和歌山県) 野原 未蘭 (富山県)
40	令和元.8.3～4	男 56 女 48	西室 壮人 (山梨県) 亀田 夢乃 (大阪府)
41	新型コロナウイルス感染症の影響により中止		

●大山康晴十五世名人杯争奪将棋大会 (主催：天童市)

回	開催年月日	場 所	参加人数	優勝者
1	平成 7.11.26	市民プラザ	58	沼田 進 (酒田市)
2	8.11.17	〃	52	鈴木 英春 (東京都)
3	9.11.16	総合福祉センター	59	阿部 利一 (寒河江市)
4	10.11.14	市民文化会館	99	小坂 精顕 (鶴岡市)
5	11.11.14	総合福祉センター	64	磯 佳秀 (酒田市)
6	12.11.5	〃	52	山寺 清志 (酒田市)
7	13.10.13～14	スポーツセンター	102	橋澤 英昭 (新庄市)
8	14.11.2～3	総合福祉センター	90	吉田 正和 (埼玉県)
9	15.10.11～12	スポーツセンター	100	山田 洋次 (神奈川県)
10	16.10.23～24	総合福祉センター	103	小泉 卓也 (東京都)
11	17.10.22～23	〃	99	渡辺 徳之 (東京都)
12	18.10.21～22	〃	72	庄司 弘光 (宮城県)
13	19.10.20～21	〃	75	荒田 敏史 (茨城県)

回	開催年月日	場 所	参加人数	優勝者
14	平成 20.11.8～9	滝の湯ホテル	88	小泉 卓也 (東京都)
15	21.10.17～18	総合福祉センター	73	鈴木 英春 (石川県)
16	22.10.16～17	〃	64	千葉 成人 (東京都)
17	23.10.15～16	〃	71	庄司 俊之 (東京都)
18	24.10.20～21	〃	60	小泉 卓也 (東京都)
19	25.10.19～20	〃	75	庄司 俊之 (東京都)
20	26.10.18～19	〃	70	伊藤 大悟 (東京都)
21	27.10.17～18	〃	91	星宮 謙 (宮城県)
22	28.10.15～16	〃	76	遠藤 正樹 (埼玉県)
23	29.10.28～29	〃	79	中川 滉生 (岩手県)
24	30.10.20～21	〃	73	小泉 卓也 (東京都)
25	令和元.10.19～20	〃	84	浅倉 孝幸 (茨城県)
26	新型コロナウイルス感染症の影響により中止			



天童将棋駒資料編

●天童桜まつり子ども将棋大会 (主催：天童桜まつり実行委員会)

回	開催年月日	場 所	優勝者				
			小学校低学年	小学校高学年	中学年	女子	
1	昭和46.5.5	中央公民館	飯田 弘之 (西山小)		宮野 隆 (真室川中)	-	
2	47.5.5	"	柏倉 剛 (豊田小)		佐藤 義洋 (山附中)	-	
3	48.5.5	"	飯田 弘之 (西山小)		中村 真一 (上山一中)	-	
4	49.5.5	"	縄野 良雄 (寒河江小)		飯田 弘之 (西川東部中)	-	
5	50.5.5	"	矢野 義紀 (中都小)		後藤 克博 (山形五中)	-	
6	51.5.5	"	庄司 俊之 (仙台南光台小)		後藤 克博 (山形五中)	-	
7	52.5.5	"	戸沢 英典 (山形六小)		後藤 克博 (山形五中)	-	
8	53.5.5	"	戸沢 英典 (山形六小)		近藤 敦 (山形二中)	-	
9	54.5.5	"	遠田 智明 (山形四小)		戸沢 英典 (山形附中)	-	
10	55.5.5	"	岩月広太郎 (蔵増小)		小神 修一 (山形二中)	-	
11	56.5.5	"	奥山 秀吉 (成生小)		有本 靖彦 (赤湯中)	-	
12	57.5.5	"	上田 純一 (新潟上所小)		渡辺 隆一 (東京日黒第六中)	-	
13	58.4.24	舞鶴山山頂	伊藤 成規 (酒田亀城小)		鈴木 隆 (大江中)	-	
14	59.4.22	"	杉沼 善之 (宮宿小)		渡辺 俊雄 (函館北中)	-	
15	60.4.28	"				-	
16	61.4.27	"	高橋 賢 (松陵小)		伊藤 成規 (酒田三中)	-	
17	62.4.26	"	高橋 慶行 (津山小)	高橋 則夫 (北部小)	大木 尚文 (上山南中)	-	
18	63.4.24	"	芳賀 大樹 (酒田亀城小)	香林 雅人 (山形五小)	佐藤 裕志 (山形四中)	-	
19	平成元.4.23	天童市商工会館	芳賀 大樹 (酒田亀城小)		松田 将吾 (天童二中)	-	
20	2.4.22	"	芳賀 大樹 (酒田亀城小)		松田 将吾 (天童二中)	-	
21	3.4.28	"	芳賀 大樹 (酒田亀城小)		阿部 隆幸 (天童二中)	-	
22	4.4.26	"	岡田 毅 (山形西小)	稲村 健路 (仙台榴ヶ岡小)	大類 成人 (日大山形中)	-	
23	5.4.18	市民プラザ	宇野 智洋 (谷地西部小)	岡田 毅 (山形西小)	鈴木 利武 (山形三中)	-	
24	6.4.17	"	池島 純 (山形市竹田幼稚園)	岡田 毅 (山形西小)	和田 和也 (天童一中)	-	
25	7.4.8	"	池島 雄太 (山形西小)	岡田 毅 (山形西小)	和田 和也 (天童一中)	-	
26	8.4.14	"	池島 純 (山形西小)	山口 祐史 (長岡小)	芝田 将人 (酒田鳥海中)	-	
27	9.4.12	中央公民館	阿部健治郎 (酒田亀城小)	岡田 毅 (山形西小)	森 太郎 (仙台市寺岡中)	高橋 真舞 (天童中部小)	
28	10.4.12	福祉センター	池島 純 (山形西小)	阿部健治郎 (酒田亀城小)	岡田 毅 (山形二中)	高橋 真舞 (天童中部小)	
29	11.4.18	"	阿部 洋嗣 (天童長岡小)	阿部健治郎 (酒田亀城小)	山口 祐史 (天童三中)	芝田 寿杏 (酒田鳥海中)	
30	12.4.16	市民プラザ	堀 泰彰 (谷地中部小)	村川 裕太 (村山橋岡小)	土屋 辰徳 (山形六中)	芝田 寿杏 (酒田鳥海中)	
31	13.4.15	"	萬 真一 (宮城県大和町小野小)	池島 純 (山形西小)	佐藤 稔 (三川中)	萬 真梨子 (宮城県大和町小野小)	
32	14.4.14	福祉センター	竹田 万葉 (左沢小)	萬 真一 (宮城県大和町小野小)	門田 健宏 (酒田六中)	萬 真梨子 (宮床中)	
33	15.4.13	市民プラザ	小山 周朗 (琢成小)	浅野 大輔 (仙台長町南小)	門田 健宏 (酒田六中)	成田 弥徳 (仙台桂小)	
34	16.4.18	"	鎌上 優太 (豊田小)	多々納 守 (杉並区高井戸四小)	渡邊 翔太 (仙台市鶴谷中)	阿部 美鈴 (寒河江中部小)	
35	17.4.10	"	日高 啓道 (船橋市小栗原小)	竹田 万葉 (左沢小)	堀井厚太郎 (天童一中)	阿部 莉奈 (陵南中)	
36	18.4.16	"	堀 裕貴 (柴橋小)	真木野芳紀 (いわき市小名浜小)	斎藤 裕樹 (山大附中)	阿部 莉奈 (陵南中)	
37	19.4.15	"	長沼 康大 (天童北部小)	川又 祐斗 (水戸市常磐小)	尾形 裕斗 (天童二中)	小林 愛実 (鶴岡三中)	
38	20.4.13	"	武田 大地 (天童南部小)	長沼 康大 (天童北部小)	百々 拓 (宮城教育大学付属中)	鈴木久留実 (寒河江南部小)	
			王将の部	金将の部	と金の部	歩の部	中学生の部
39	21.4.12	市民プラザ	佐藤 大透 (天童北部小)	菅原 幸毅 (仙台岩沼小)	青柳 俊希 (天童中部小)	-	尾形 裕斗 (天童二中)
40	22.4.11	"	近藤 光 (仙台市広瀬小)	矢萩 啓輝 (東根中部小)	古川 禎人 (糠野目小)	-	武田 一馬 (天童二中)
41			東日本大震災の影響により中止				
42	24.4.15	市民プラザ	近藤 光 (仙台市広瀬小)	大川 彪 (鶴岡朝陽六小)	桐原考太郎 (神町小)	-	相田 紗那 (天童二中)
43	25.4.7	"	袴田悠一郎 (仙台北原小)	松本 望 (天童中部小)	清野 達嗣 (寒河江南部小)	-	岡部 怜央 (鶴岡一中)
44	26.4.20	"	大島 陸 (大田原小)	清野 達嗣 (寒河江南部小)	高橋 慧伍 (西郷小)	-	吉田 貴如 (天童三中)
45	27.4.19	"	渡邊 東英 (長崎小)	桐原考太郎 (神町小)	鈴木 悠真 (橋岡小)	-	田部 史哉 (福島湯川中)
46	28.4.17	"	円谷 晴揮 (東京小野学園)	桐原考太郎 (神町小)	鈴木 和真 (寺津小)	-	渡邊 東英 (中山中)
47	29.4.16	"	清野 達嗣 (寒河江南部小)	国井 陽太 (天童中部小)	富田 明寿 (山形六小)	-	須田 優輝 (仙台南山中)
48	30.4.15	"	中屋 俊 (仙台七郷小)	羽田 蓮 (福島岡山小)	鈴木 風良 (米沢南部小)	今野 伯宥 (米沢南部小)	高橋 大輝 (陵東中)
49	31.4.14	"	浜本慧志郎 (仙台長町南小)	宮崎 翔太 (鶴岡朝陽四小)	斎藤 奏汰 (橋岡小)	高橋 朔弥 (山形九小)	那須 桂馬 (神町中)
50			新型コロナウイルス感染症の影響により中止				

■将棋駒関連表彰者

●叙勲 勲六等瑞宝章(伝統工芸業務功労)

年 度	氏 名
H14	伊 藤 太 郎

●厚生労働大臣表彰(現代の名工)

年 度	氏 名
H元	伊 藤 孝 蔵
H30	国 井 孝

●経済産業大臣表彰(伝統的工芸品産業功労者等表彰)

年 度	氏 名
R元	武 内 昭 博

●文化庁長官表彰

年 度	氏 名
H30	桜 井 和 男

●山形県知事表彰(卓越技能者等表彰)

年 度	氏 名
S59	伊 藤 孝 蔵
H11	伊 藤 太 郎
H15	国 井 孝
H16	森 恵 治
H23	桜 井 和 男
H24	手 塚 博
H25	菱 沼 芳 夫
H26	高 橋 恒 彦

●天童市技能功労者褒賞

年 度	氏 名
S58	福 原 藤三郎
S59	佐 藤 周次郎
S60	安 喰 幸一郎
S61	川 股 忠 作
S62	浦 山 二 郎
S63	梅 津 作 郎
H元	安 達 義 一
H 2	齋 藤 喜代治
H 3	伊 藤 太 郎
H 4	堀 越 勇
H 5	吉 田 重 雄
H 6	水 戸 常 丸
	澤 沼 正 志
H 7	國 井 庄 吉
H 8	佐 藤 丈 夫
	神 尾 周 一
H 9	森 恵 治
H10	山 口 峯 治
H11	手 塚 博
H12	国 井 孝
H13	赤 塚 留 雄
H14	齋 藤 正 志
H15	早 川 清
H16	佐 藤 照 夫
H17	斎 藤 喜 吉
H18	佐 藤 稔
H19	菱 沼 芳 夫
H20	高 橋 恒 彦
H21	富 沢 武 夫
H22	桜 井 和 男
H23	國 井 辰 雄
H24	安 達 博
H27	中 島 正 晴
H30	桜 井 亮





天童将棋駒資料編

■伝統的工芸品

●伝統的工芸品とは

「伝統的工芸品産業の振興に関する法律」に基づいて、経済産業大臣が指定する工芸品をいいます。「天童将棋駒」は平成8年に指定を受けました。全国236品目の工芸品が指定を受けています（令和3年1月時点）。

●伝統的工芸品の要件

- 1 主として日常生活で使われるものであること
- 2 製造過程の主要部分が手作りであること
- 3 伝統的技術または技法によって製造されたものであること
- 4 伝統的に使用されてきた原材料であること
- 5 一定の地域で産地を形成していること

■伝統工芸士

●伝統工芸士とは

「伝統的工芸品産業の振興に関する法律」に基づいて、伝統的な技術又は技法に熟練した従事者として認定された人をいいます。伝統工芸士は、産地を代表する高度な伝統的技術の保持者として、技術・技法の向上に努めるだけでなく、産地振興や後継者確保育成などの役割を担っています。

●伝統的工芸品としての天童将棋駒の技法

- 1 将棋駒の木地作りにあつては、玉切りにした材を、大割り、小割り及び駒切りをすること
- 2 書き駒にあつては、駒木地に筆を使用し、漆を用いて、将棋駒独特の書体により、直接書くこと
- 3 彫り駒にあつては、字形から字母紙に陰影を写し取り、陰影を取った字母紙を切り取り、駒木地にのりで張り付け、印刀で彫り、目止めをしたあと、漆入れ、下地漆入れ、又は漆盛り上げにより仕上げる

●天童将棋駒伝統工芸士の推移

年 度	人 数
H 9	11名
H14	13名
H19	9名
H24	8名
H29	5名

伝統工芸士の認定には12年以上の実務経験や高い技術が求められます。また、駒職人の高齢化により認定者数は年々減少傾向にあります。そのため、天童市と山形県将棋駒協同組合は後継者育成講座を開講するなど、駒職人の養成に取り組んでいます。

■将棋駒年表

江戸	1831	天保2年	書駒草書の原形となる書体、将棋駒製造の技術が伝わる。 織田信美、居館を高島から天童に移し、入部する。
	1864	元治元年	吉田大八が用人役に就き、藩士の生活困窮対策に将棋駒製造を奨励する。
明治	1868	明治元年	吉田大八、観月庵にて切腹。
	1869	明治2年	織田信敏、天童藩知事に任命される。 将棋駒卸売業（駒屋）が形成される。 書駒が発展し、山川千満蔵（ちまぞう）らの書師が輩出される。
	1909	明治42年	天童温泉が開かれる。
	1910	明治43年	結城定助、小林盛知らが足踏式荒切り機械を考案。将棋駒製造機械化の端緒を開く。
大正	1912	大正元年	三河金次郎、印鑑彫りの技術を生かし彫駒を作る。
	1915	大正4年	竹内七三郎、東京・奥野一香のもとで駒彫りを習い、東京彫りを導入する。
	1919	大正8年	中島為三郎、電力による玉切りを始める。ついで結城定助らの協力で小割仕上げ機械を完成し、駒木地の工場一貫生産を始める。
昭和	1928	昭和3年	斎藤喜代治、足踏式小割専門機械を考案。
	1932	昭和7年	大山広吉、手押し式仕上げ機械を考案。これら一連の手動式の木地加工機械は操作簡便なため、広く普及する。工場設置の機械に蒸気動力や発動機が利用される。
	1935	昭和10年	工場生産において、機械の動力化が進む。
	1937	昭和12年	「天童町将棋駒工業組合」が結成される。
	1939	昭和14年	大阪からの依頼により、押駒の生産が始まる（昭和14年～15年頃）。
	1940	昭和15年	彫駒の目止めに、赤く変色する欠点のあったカキシブにかわり、ニカワが使われるようになる。
	1941	昭和16年	第二次世界大戦勃発に伴い、兵隊に対する慰問駒の大量生産が行われる。
	1945	昭和20年	第二次世界大戦終戦。
	1946	昭和21年	「山形県将棋駒工業協同組合」が結成される。 戦後まもなく書駒の草書体は書かれなくなり、楷書体中心になる。
	1954	昭和29年	一町六ヵ村が合併し、新天童町が発足。 「山形県将棋駒協同組合」が結成される。
	1955	昭和30年	シャムツゲ材が導入され、彫駒の需要に対応する。 彫駒の目止めに、ニカワにかわってボンドが使用される。
	1958	昭和33年	天童市制施行される。 （昭和30年代）押駒、書駒中心の生産から、彫駒の生産が増える。 銘駒の導入がさかんになる。
	1965	昭和40年	（昭和40年代）生産の重点が彫駒に移り、彫埋、盛上駒の商品化も行われる。 字体に多くの書体が使われる。 彫駒において機械彫りが始まる。
	和	1974	昭和49年
1985		昭和60年	生業としてのナタ切り木地生産が姿を消す。 第1回「銘駒工人会展」天童では初めてとなる職人だけの作品展が開催される。



天童将棋駒資料編

平成	1992	平成4年	天童市将棋資料館が開設される。
	1996	平成8年	「天童将棋駒」が伝統的工芸品として通商産業省から指定される。
	1997	平成9年	後継者育成講座の開講（第1次振興計画）。
	1998	平成10年	天童将棋駒伝統工芸士会が設立される。 第1回天童将棋まつりが開催される。
	2005	平成17年	天童将棋交流室が開設される。 後継者育成講座の開講（第2次振興計画）。
	2009	平成21年	後継者育成講座の開講（第3次振興計画）。
	2015	平成27年	後継者育成講座の開講（第4次振興計画）。
令和	2018	平成30年	将棋の同時対局数でギネス世界記録を達成「二千局盤来2018」。 第44回将棋の日は天童市で開催される。
	2020	令和2年	道の駅天童温泉内、市森林情報館「もり～な天童」において、展示・実演コーナーが設置される。 後継者育成講座の開講（第5次振興計画）。



第78期 名人戦第二局で使用された駒

■将棋のまち天童

●二千局盤来2018

平成30年10月14日に市制施行60周年を記念して「一会場で同時に行った将棋の最多対局数」のギネス世界記録に挑戦し、これまでの記録を大きく上回る2362局で世界記録を達成しました。

世界記録達成を記念し、舞鶴山山頂に記念モニュメントを設置しています。



●天童将棋駒の実演・展示

道の駅天童温泉内にある天童市森林情報館「もり～な天童」で将棋駒の製作実演や将棋駒及び将棋関連グッズの展示を行っています。

住 所 天童市楯ノ町二丁目3-41

実演日時 午前10時から午後4時まで（途中1時間の休憩あり）

毎週火曜日（祝日の場合は直後の平日）及び1月1日は休み

※実演日時については変更となる場合があります





天童将棋駒資料編

●将棋資料館



住 所 天童市本町一丁目1-1 (JR天童駅隣接)
開館時間 午前9時から午後6時まで (入館は午後5時半まで)
休 館 日 毎月第3月曜日 (祝日の場合は翌日)、年末年始
料 金 大人320円 高校生・大学生210円 小・中学生100円
※変更になる場合があります

●将棋交流室・プロ棋士育成教室

将棋交流室は誰でも気軽に将棋を楽しめる場所として平成17年に開館しました。

プロ棋士育成教室は「将棋のまち天童からプロ棋士の誕生」を目指し、天童市と日本将棋連盟天童支部が平成31年4月から共同で行っている事業です。

住 所 天童市本町一丁目1-1 (JR天童駅隣接)
開館時間 平 日 午後1時から午後6時まで
土日・祝 午前10時から午後6時まで
休 館 日 毎月第3月曜日 (祝日の場合は翌日)、年末年始
料 金 無料
※変更になる場合があります



●将棋駒をあしらったさまざまなモニュメント



市内の歩道にある詰将棋

天童南駅前「王手門」
(天童市芳賀土地区画整理事業竣工記念モニュメント)



道の駅天童温泉にある足湯「駒の湯」

舞鶴山山頂にある将棋供養塔



MAIZURU

世界的デザイナー奥山清行氏が代表を務める KEN OKUYAMA DESIGN のデザイン・監修のもと、天童木工と駒工人・高橋稚山（ちざん）氏による本市の優れた技術の結集により完成した飾り駒です。

「左馬」はウマの逆で「舞う」を表し、舞いは祝いの席で催されるものであるため、招福の駒として贈答品などに用いられています。

■編集・発行

天童市商工観光課

〒994-8510 山形県天童市老野森一丁目1番1号
TEL 023 (654) 1111

令和3年改訂

■協力

**山形県将棋駒協同組合
天童将棋駒伝統工芸士会**

〒994-0013 山形県天童市老野森一丁目3番28号
(天童商工会議所内)
TEL 023 (654) 3511